



< 3月2日(火) >

21:00 成田発で出発予定であるが、前日の月曜日が福岡出張のため、朝早い便で赤坂見附の本社に戻った。実に一週間以上、席を空けていたことになる。営業のSさんなどが

「あれ、珍しいですねえ」

などとからかってきやがるが、まあ事実なので仕方あるまい。航空券などを受け取って、持っていく書類やドキュメントを整理することにしたが、あまりにも膨大で自分でもビックリする。家にも持っていく書籍類が山積みになっているのだが、これを加えると一体どうなることなのか。

実は前回同様、この時点で荷物をまだ作っていない。そのため、昼過ぎに会社を出ていったん自宅マンションに戻った。前はホテルに今回はホテルでの2台の1603R(自分所有)を持ち込んだが、今回は持参しないことにした。コマンドレベルの不安はもう存在しないからだ。あれやこれやと急いで荷物をまとめてタクシーで池袋に移動した。そこからリムジンバスで成田に移動である。

私が合格すれば、実は会社にも利益が生じるのだが、ただそれだけのために海外での受験を許してもらっているわけではないと思っている。常に一步でも前に進もうとする気持ちを持ちつづけることがSEとして一番重要なことだと思っているが、その気持ちに会社がある程度賛同してくれているからだと思っている。

ただ、何度も海外受験に不合格になるプレッシャーはいかなるものか、決して他人にはわからないであろう。迫ってくる試験が恐ろしいと感じることすらある。ほぼ毎日のように試験に関する夢を見てしまう。あまりのプレッシャーで2週間を切った頃からは気分が悪くなるくらいである。それをO事業部長が

「通ってください」

などとメールをよこしてくるもんだから、プレッシャーは何倍にもなってしまう。この試験は、

基本的に合格しないものである。

ここで前回と同じではあるが、今回の出張について説明する。ネットワーク機器メーカーのシスコシステムズ（本社サンノゼ）の最上位資格である CCIE のラボ試験のための出張である。なお CCIE は現在 4 種類あるのだが私は Routing&Switching は既に取得しているそこで新たな挑戦として Security に関する CCIE 資格を目指している。ふたつ以上の CCIE 資格を所有することを、俗に「ダブルホルダー」「トリプルホルダー」と呼ぶが、2 年半前はダブルホルダーが世界で 3 人で、トリプルは 1 人だったはずである。現在ではその数も増えているようであるが、それでも何十人もいるものではないと推測される。私の計画ではトリプルまで取って、世界屈指のエンジニアになるのが目標なのである。その時点ではサラリーマンをやめても大丈夫であろう。

CCIE 試験は学科とラボ（実技）に分かれるが、学科に合格したもののだけがラボへと駒を進めることができる。私は約一年半前に学科に合格した後、前回と前々回の出張記に書いたように二度もラボ試験を不合格になり、満を持して今回の試験に臨むわけである。

特に前回不合格になったからは、クリスマスや正月など何も関係なく、全てを勉強に注ぎ込んだ。土日で休んだのは元旦だけだったと記憶している。家でも遅くまで勉強するので、正直言って睡眠不足でフラフラである。

Security ラボは日本では受験できない。サンノゼ、ベルギー、北京もしくはシドニーで受験することになる。Routing&Switching を合格することができたシドニーが土地鑑もあるし時差が少ないので移動が楽なため、受験地に選んでいる。最近受験地に加わった北京が近くていいように思うかもしれないが、私は以前北京に出張に行って、「もう二度と来るか！」と思った過去がある。なのでシドニーが一番良いのである。但し、もし日本で開催されるようになればもちろん日本で受けたいのは当然である。

成田到着。日本はまだまだ冬そのものであるが、シドニーではまだ夏である。成田でコートのスーツケースに押し込んだ。

私は JAL のグローバルクラブ会員なので「Seasons」と書いている、ファーストクラス専用カウンターでチェックインできる。エコノミークラス専用カウンターに並んでいる庶民の皆さん、お疲れ様です。だいたい、そんなに並ぶ理由がわからないよ。訳のわからない海外線じゃないんだから、自分の席くらい確保できているでしょうに。

荷物が大変重く、37 キロもある。普通は 20 キロまでなのであるが、グローバル特典として 40 キロまで大丈夫だ。それでもギリギリくらいである。

前回、前々回と、行きだけは自費でビジネスクラスにアップグレードした私であるが、今回は原点に戻る（何の原点だ？）意味もあり、往復ともにエコノミーで行くことにしている。

ここで、最近忘れていた儀式を行うことにした。勝負事にこだわる私は勝負の前に「カツ」を食べるこ

とにしている。カツ丼やカツカレーがそれに当たるのであるが、空港のレストランでカツカレーを食べた。こういうことは重要なことなのである。おいしいとかマズイとかが問題ではなく、それを食べるということが儀式として重要という意味である。

もうひとつの儀式である「散髪」は一週間前に済ませたのでそれでよしとしよう。

出発まで2時間くらいはあるので、グローバル専用ラウンジで勉強する。どうしても仕事で気になることがあったので、九州営業所のYさんに電話したが

「あれ？ 海外からですか？」

などととぼけている。まあ、あまり予定を宣伝していないので無理もないか。



今回の出張では、またもや重大な使命も背負っている。前回、いつも会社でお世話になってばかりのMさんからカンガルーのキン マ袋でできたポーチを頼まれ、苦勞の末に購入して大喝采を浴びた私であるが、今回もKSDさんとKTNさんから5タマを頼まれている。私がオーストラリアに出張するたびにカンガルーのキン マが切り取られていくのである。

<機内にて>

約9時間でシドニー到着であるが、今回も往復ともにエコノミーである。しょぼん、とおとなしくしていることにした。ところがすかさずキャビンアテンダントさんが

「兵頭様ですか？ いつもご利用頂きましてありがとうございます。」

などと挨拶してくる。グローバル会員がどこに乗っているのか予め知っているのだ。

私はできる限り、EXITシート（非常席座席）をリクエストすることになっている。足元が広く、トイレなどにも行きやすいからである。しかも、できる限り、自分の隣の席を空けてもらうようお願いをすることになっている。だって、隣はいない方が嬉しいのは万人に共通である。わがままは言ったもんが勝

ちなのである。

ところが、非常席座席の窓側の外人のおねえちゃんが

「自分の席は足を伸ばせないの、隣に移っても良いか。」

などと言ってきやがった。そう、非常席座席の窓側は注意しなければいけないのである。出っ張りがあるので足を伸ばせないのだ。そんなことに引っ掛かるのは素人丸出しであるが、まさかわざわざ私が空けておいた座席に移ろうとするとは。。

が、元来、人の良い私は

「あ、そ、そ、そうですね。全然構わないですよ。No Problem。」

などといってしまった。あーあ。。

そこでキャビンアテンダントさんに代わりの席を探してもらうように手配をお願いした。もう離陸間際なので移動できないが、隣が十分に空いた席を確保してもらったようである。非常席座席ではないが、勉強しながら行く予定の私は隣の席に書類などを散らかす必要があるため、できるだけ隣はいない方が嬉しいのである。



無事に離陸後に席を移動して勉強を開始した。おや？ 結構魅力的な映画があるなあ、などと思っているうちに二つ映画を2本も観てしまった。「アウト・オブ・タイム」と「半落ち」だ。「半落ち」って確か話題になったような気がするけど、何がそんなにいいのだろうか？

私の中でのナンバーワンの映画は、圧倒的に「七人の侍」である。別にこの映画が評価されているから何となくということではない。この映画を初めて観たのは小学校の時であったが、心の底から突き動かされる感動を味わった。与平（登場人物）がかわいそうだ、とかそういう単純なものではない。喜びや悲しみ、次に起こることへに期待、など映画に必要な要素が全て凝縮していると感じた。いつ観ても面

白い映画だ。

2番目は難しく、「大脱走」か「アンタッチャブル」だろうか。「大脱走」など、何回観ても身乗り出してしまふほど面白い。

ところで、海外線では、時々キャビンアテンダントさんが「コーヒー？」とか「ティー？」とか言って廻ってくる。つい飲みたくもないのにコーヒーなどを入れてもらうのは貧乏性だからだろうか。決してコーヒーが嫌いということではなく、機内ではどちらかという食べ過ぎ、飲み過ぎになっているので、あまり気が進まないはずなのに、ついつい「あ、お願いします」などと言ってしまふ。

最近、会社ではレギュラーコーヒーが一大ブームとなっている。私がコーヒー友の会を設立し、ブルックスのレギュラーコーヒーを皆さんに提供したのである。私はずっと提供し続けるつもりだったが、KWHRさんやKSDさんなどが主旨に賛同してくれ、持ち回りみたいにお金を払っている。

もし、ここで私の親類がブルックスを経営していて、みんながコーヒーにハマったのは意図的に仕組んだことなどという爆弾宣言でもすれば、KSDさんなどは殴りかかってくるかもしれない。真相は闇の中ということにしておこう。

到着は現地時間の朝9時の予定である。元々、一時間の時差があるのだが、サマータイムでさらに一時間早い。だがこれくらいだったら時差ぼけなどは無いので心配要らない。

< 3月3日(木) >

無事着陸。入国審査へと進む。いつものように私は「さとうのご飯」を持ち込んでいる。オーストラリアは食べ物の持込には大変厳しい国である。申告すれば問題の無いものでも黙って通過しようとしてバレてしまったら、罰金や最悪の場合は投獄されることもある。特に問題なく検疫を通過する。正直に言えば問題無いのである。

ところで私がここまでさとうのご飯を宣伝していることに製造元の佐藤食品(新潟)さんは何もお礼を言ってこない。多分、このページでしつこく宣伝していることで売上が2割は上がっているはずだ。ちゃんとリサーチして、今後は出張時のスポンサーになって欲しいものである。私は、他のパチもんが安売りしていても、さとうのご飯を指名買いしている。



ただ単に試験のためだけの出張なのでホテルから一步も出ないためこういう非常食には大変助けられる。

タクシーでホテルに向かう。試験が行われるのはシスコオーストラリアのある町で chatswood というところだ。シドニーからはタクシーで 30 分程かかるところで、田舎町である。もう 5 度目であるが、とても気に入っている町だ。



いつもタクシーが迷ってしまうので、地図も準備して

「ここに行ってください」

とお願いしたのだが、案の定、VICTORIA と VICTOR を間違えている。出発前にしつこく

「VICTORIA じゃなくって、VICTOR ですからね！」

と念を押しておいてもこの有様である。

いつものホテルにチェックイン。部屋に入り、スーツケースから膨大な勉強道具を取り出した。飛行機の中で寝ていたとはいえ、かなり眠い。しかも体調が悪い。冬から夏に来るので体調の維持が大変だ。

水などを買いだしに行ってしばらく寝ることにした。ところが頭痛で寝ることもできない状態である。すぐにバファリンを飲むが、夕方になっても頭痛は治まらない。仕方ないので体調が悪いなりに、勉強を開始することにした。寝たのは現地時間の0時過ぎくらいである。



< 3月4日(木)試験当日 >

朝、5時に起床し少し勉強する予定だったが、またもや頭が非常に痛い。ヤバイ！　すぐにバファリンを飲んで再び寝ることにした。体調が悪いまま臨むよりも勉強時間を削ってでも体調回復を願う方がいいだろう。7時半まで寝て、まだ頭痛がするが、何とか起きれる状態までなったので試験会場に向かうことにした。

今回の受験者は私だけである。プロクタは前回と同じである。

簡単に本人確認をして試験開始だ。試験は8時間の長丁場になる。その間はほとんど休むヒマは無い。英知を結集した8時間となる。

シスコとは試験の前に守秘義務契約を結んでいるので、試験内容には触れることはできないのでご容赦願いたい。とても難しい内容だ。公開されている内容の中で説明すると、Router や Switch やファイアウォールを使って大規模なネットワークを構築していき、その際に必要な Security をそれらに施していく。とてもハードな内容だ。CCIE の Routing&Switcing に合格できるベースがあって、初めてこの問

題の意図がわかるであろう。

試験中、どう考えてもおかしな現象が発生した。これは多分、Lab 機材の問題であろうと判断した私は

「えーっと、どうも、機材がおかしいんですけども。。。」

と恐る恐る言うと

「ふむふむ。Lab はおかしくない。君の間違いだ。チェックするように。」

などと言い返してきやがった。

何とか自分で解決しないとイケない。時間は刻々と過ぎていく。もうダメだ。絶対に、オレは正しい。と強い確信を持って再度文句を言った。プロクタは私の席に座って、あーでもない、こーでもないと調べだした。その結果

「オッケー。これは Lab の問題だ。すぐに修復させる。」

と言いやがった。この野郎！ だから言っただろうが！
とてつもない時間を損してしまった。時間が気になる。。

あっという間に昼食だ。さっきのトラブルは強く抗議して延長時間をもらえることになった。だが、たったの 30 分。とほほ。。

まあ、これ以上文句を言っても仕方ないか。

昼食を食べながら、プロクタといろいろな話をした。かつて、Nさんと一緒に受験に行った際には、外人と話をするのが嫌で嫌で仕方なかったが、それから英会話も精進して頑張ったので日常会話には支障がなくなった。しかし、一番楽なのは技術英語を喋る時だ。全然緊張しない。だって、相手も知っている言葉ばかりなんだから、適当に接続詞でつないでいけば絶対にわかってもらえるから。

「OSPF,neighbor AH ~ my solution don't work」

などと言えば、相手も同じ技術者なのできっとわかってもらえるはずだ。今でも日常会話の方が何倍も難しいと思っている。

午後がスタート。ロスした時間があまりにも痛くて、時間が足りない。終了ギリギリまでコマンドを打ち込んだが、やはり時間切れの感が強い。

そうこうしているうちにタイムアップ。プロクタに挨拶してホテルに戻った。やはり不合格だなあと落ち込んだ。

ちなみにシドニー滞在の間で外出したのは水を買いにコンビニに行ったのと、試験のためだけである。あとはずっとホテルである。皆さん、公費での出張というのは厳しいものですよ。

町には日本人も多く、茶髪のパカ女子学生なども普通に存在する。ルーズソックスを履いているので間違いなく日本人であろう。カーディガンを着ているのも日本での所業と全く同じである。

たこ焼き屋などが町の屋台として出ている。通り過ぎながら聞き耳を立てると日本語で話している。留学している学生さんたちだろうか。頑張ってください。

ホテルに戻り、必死に覚えている問題をまとめることにする。次につなげるためである。まとめながらどうしても分からなかった箇所を調べていく。あっという間に深夜の2時過ぎだ。あぁ、もう寝ることにしよう。

明日は空港までタクシーを呼んでもらっているが、まさかまた前回と同じタクシーじゃないだろうな。などと考えながら寝ることにする。

< 3月5日(金) >

朝の6時に起床し、準備する。まだ合否を伝えるメールは来っていない。ふーむ。。。

7時にチェックアウトし、呼んでもらったタクシーで空港に向かう。今回は前回とは違うタクシーだ。いい年をしたおっさんだが英語が聞き取りにくい。何を言っているのかよくわからないのだが、人が良さそうなので無視するには悪いので

「オー、ヤー」

などと適当に受け答えした。

途中、ランクルが走っていたので

「私は日本でランクルに乗っているんですよ」

なんて話しかけたら

「スペアパーツがどうのこうの。。。」

なんて言ってきやがった。何でスペアパーツの話題になるの？
どういう話題のセンスをしているんだろうか。

「今日は平日だが、空港までは渋滞するのか？」

とか聞いてみたが、よくわからん。キャンベラに行く道は渋滞していないことだけはわかった。誰も首都キャンベラには行きたくないぞ。

このタクシーはフォード製だが、なんと52万キロも走行している。1999年製だって言ってるからものすごい走行距離だ。一日に何キロ走ってるんだよ。

空港に到着。早速チェックインする。成田で荷物を早く受け取りたいので

「プリーズ、スペシャルタグを付けてくれ！」

とお願ひした。元々、グローバル会員はプライオリティバゲージサービスといって、優先で手荷物が出てくるのであるが、さらに早く受け取ろうという魂胆である。

しかもいつものようにEXITシートでかつ、隣をブロックすることも忘れずにお願ひした。

ここで、例のキンマを買うことにした。前回と同じ店で無事購入。店のねえちゃんは

「今日は朝からみんなこのキンマを次から次に買っていく。ホワッツハッポン！」

などと驚いていた。これはきっと、Mさんをはじめ、キンマ愛好者の熱い思いが全世界的に広まってきた結果であると思う。

それ以外のお土産は一切購入していない。土産物屋などをうろちょろしていると、皆さんはチョコなどを購入するようである。上級者になると化粧品を置いてあるShopで口紅やマニキュアなどを購入している。

余談であるが、ある女性が歯医者さんで治療の際に

「口笛を吹いてください」

と言われて、ひゅ～などと意味も無く吹くと

「口紅を拭いてください」

の間違ひだったという話がある。皆さんは海外旅行の際に土産物屋さんで口笛を吹いたりしないように注意して頂きたい。

シドニーでもJALラウンジで休むことにしたが、念のため自分の席をチェックしてもらおうと、既に隣が座っているとのこと。まあ、EXITは人気が高いので仕方あるまい。すかさず、EXITではないが、3席まとめてキープできる場所を探してBookingしてもらおうようにお願ひした。

定刻どおりに無事離陸。今回の出張は自分としても必勝体制で臨んだため、正直言って不合格が予想される現在、とても気が重い。精神力と体力の限界まで自分を追い込んだので、これ以上、また気力を持ち直すのは難しい。が、現時点では次回に向け、また頑張ろうと思っている。明日、あさっては早速会社で勉強予定である。